

## 双葉地区教育構想 新構想

## 「双葉地区 未来創造型リーダー育成構想」のポイント

平成 29 年 3 月  
双葉地区教育構想推進会議

## I これまでの双葉地区教育構想の総括

双葉地区教育構想の「草創期」(第1フェーズ, 2006 (H18) ~2010 (H22))、震災後の不屈の「挑戦期」(第2フェーズ, 2011 (H23) ~2016 (H28)) を総括した上で、今後5年程度を見据えた期間を新たな構想による「飛躍期」(第3フェーズ, 2017 (H29) ~) と位置づけ、そのグランドデザインを描く。

基本目的である「国際社会をリードする人材の育成」を旧構想から継承しつつ、新構想では未来創造型リーダーの育成へと発展・実質化させる。(「開拓者」から「変革者」へ)

- 「草創期」のうちに、バドミントン部の全国大会優勝、サッカーやゴルフのプロ選手の誕生、四年制大学進学者の大幅な増加など、着実に成果を収めたが、国際的なトップアスリートの育成に向けて、さらなる高い目標の途上であった。他方、国際コミュニケーション及び福祉健康コースにおいては、生徒募集やカリキュラムの改善など、解決すべき課題も指摘されていた。このような折りに東日本大震災及び原発事故が発生した。
- 震災後の「挑戦期」には、避難に伴いサテライト校・仮設校舎等に分散しながらも、練習環境や教育環境を確保し、生徒・関係者の不屈の精神と不断の努力により、草創期に遜色ない輝かしい成果を出していった。また、双葉郡8町村と県が認識を共有して、教育復興のシンボルであるとともに2016 (H28) 年度をもって休校となる富岡高校を含む5校の精神も受け継ぐ「ふたば未来学園高等学校」の開設に至った。

## II 新構想のグランドデザイン

- こうした「草創期」「挑戦期」の総括を踏まえ、「飛躍期」では、以下の3つの視点を重視する。
  - ① 震災後の課題先進地域だからこそ、未来創造型の人材を育成する
  - ② 競技力だけではなく、タフでしなやかな、新時代のリーダーを養成する
  - ③ ふたば未来学園を新たな核としながら、多様な主体の協働を推進する
- また、構想の枠組みをこれまでの富岡町・広野町・檜葉町の3町から双葉郡8町村に拡大するとともに、双葉郡8町村の教育長がまとめた「双葉郡教育復興ビジョン」と本構想が両輪となりながら、相乗効果をもたらすよう取組を進める。さらに新構想ではスポーツはもちろんのこと、教育実践においても、一層重点化する。

### Ⅲ 新構想のアクションプラン

#### 1. ふたば発、世界に向けた変革者の育成

- 新構想における新たな核として、ふたば未来学園を位置づけ、変革者育成のための「未来創造型教育」を強力に推進する。
- 双葉郡全体で小学校から高校までを通じて「ふるさと創造学」に取り組み、町村や世代を超えてつながり、双葉の地に根ざした魅力的な教育を展開する。
- グローバル教育など先進的な教育プログラムを実施するため、教職員加配や海外渡航費の措置などの継続的な教育環境の整備を行う。
- 2018(H30)年度末までにふたば未来学園の本校舎・附帯施設を完成させるとともに、2017(H29)年度中には中高一貫教育のカリキュラム等に関する協議結果をまとめ、2019(H31)年度に併設中学校を開設する。

#### 2. 新時代のトップアスリートの育成

- ふたば未来学園高校トップアスリート系列の競技種目を全て新構想の対象とし、競技力のみならず地域の復興や活性化に貢献する変革者の育成を目指す。このため、指導力のある教員の配置など、指導体制・練習環境の充実に努める。
- 震災後、分散したアスリート育成の拠点を再び双葉郡に集約する。
  - ・静岡で活動しているアカデミー福島については、JFAを中心に検討を進め2017(H29)年度には、福島での再開に向けた行動計画を策定する。
  - ・猪苗代で活動しているバドミントンについては、2019(H31)年度に拠点を広野町に移す。(当該年度以降の中学生は、広野町のふたば未来学園併設中学校に入学する)
- 県版サッカーは、JFAから派遣された指導者などの協力を得ながら強化を図る。
- レスリングは、2019年度(平成31年度)以降、ビクトリープログラムの対象することを視野に入れながら強化を図る。
- 硬式野球は、双葉高校の伝統も引き継ぎ、競技力の強化を図る。  
(ゴルフは練習環境が整わないことから休止する。)

#### 3. 多様な主体との連携・絆づくり

- これまでの3町から、双葉郡8町村の推進体制に拡大し、「福島県双葉郡教育復興ビジョン」とも連携しながら、ふたば未来学園を含む双葉の教育を支えていく。
- 県・8町村はもちろん、JFAや県サッカー協会、ふたばの教育復興応援団、福島大、東日本国際大、JICA、NPOカタリバなどの多様な主体とのコラボレーションにより、教育効果を最大化する。
- サポートファミリー制度について、生徒の受入環境が整い次第再開を目指す。
- 富岡高校の休校によりルイ・バスカン高校との協定は休止するが、スーパー・グローバル・ハイスクールの取組などで海外交流は充実させる。